演奏者♪パートトップ

第1ヴァイオリン

1、5 咣丁	怕川 天佐丁	日阿 召或
前谷 拓郎	鹿田 澄子	♪ 宮本 英俊
冨山 直美	♪ 友末 洋一	山内 久美子
中山 典子	内藤 真紀子	山下 菜摘 (賛助)
冨田 久美子	二宮 奈緒美	
三木 聡一郎	畑中 彩	
宮川 朋広	舟曳 千冬	オーボエ
宮島 史英	安田 浩子	青柳 安紀
後藤 信也 (賛助)	山下 幸一郎(賛助)	古田島 綾子
日中 美保 (賛助)		♪野村 隆浩
中島 由恵 (賛助)		
	チェロ	
	今井 悠太	クラリネット
!ヴァイオリン	岩下 泰久	♪相川 大輔
夏本 学	♪高原 あゆみ	古西 章子
大野 愛	豊田 千織	百元 朝子
反本 理紗	中谷 奉子	
生藤 郁子	森岡 憲一	
木 秀樹	豊田 真広 (賛助)	ファゴット
山本 信彦		栗原 治男
内山 秀文 (賛助)		二上 義幸
申馬 義貴 (賛助)	コントラバス	♪藤田 高
高橋 由紀 (賛助)	井上 望	藤村 伸夫
田淵 和香奈(賛助)	小島 大介	
吉田 弘幸 (賛助)	橋本 由理子	
度辺 陽子 (賛助)	柳町 弘毅	ホルン
	♪山﨑 歩	伊藤 正
	門倉 昭一 (賛助)	佐久間 絵理子
		柴田 真砂男
		二宮 一敏
		樋口 愛美
		♪南 朋子
		バジル・クリッツァー(賛助

相川 美佐子

フルート 白崎 哲哉

♪ 相川 大輔	
古西 章子	
百元 朝子	
ファゴット	
栗原 治男	
二上 義幸	
♪藤田 高	
藤村 伸夫	
ホルン	
伊藤 正	
佐久間 絵理子	
45	

石林 浩樹 団長 伊豫田 望 コンサートマスター 下津佐 綾 トロンボーン&チューバ インスペクター 植松 喜孝 会計 関根 一臣 ライブラリアン ♪ 高橋 正積 録音 (賛助) 北岡 寛司 パーカッション ♪河竹 千春 ホームページ・ML 選曲 近藤 正芳 野村 万季 小林 緑生 (賛助) 三浦 惇史 (替助) 演奏会 委員長 指導者(50音順) ステージマネージャー 本野 正 遠藤 香奈子 奥泉 貴圭 チケット 斎藤 和志 ステージ 齋藤 勇二 プログラム・チラシ 内藤 真紀子 髙山 健児 寺本 義明 広報 戸澤 哲夫 記録・VTR

トランペット



Global Philharmonic Orchestra

橋本 晋哉

(敬称略)

グローバル・フィルハーモニック・オーケストラ

ため結成、「フィガロの結婚」「ドン・ジョバンニ」などを共演した。 1984年以降、シンフォニーオーケストラとして年2回の定期演奏 会を中心に活動を行っている。モナコ・フランス、オーストリアと 2度の海外公演を行ったほか、ヴァイオリン奏者のJ.J. カントロフ 氏やソプラノ歌手の故佐藤しのぶ氏、ホルン奏者のフランク・ロ イド氏など多彩なソリストとの共演を果たした。創立40年を過ぎ オーケストラである。

1981年、静岡県オペラ協会が主催するオペラ公演への参加の て当初50名程度だった団員も100名を超える大所帯となり、ある 時は古典派の緻密な様式美の再現に取り組み、またある時は近現 代作曲家の大曲に果敢に立ち向かうが、奏者と聴衆がともに音楽 を愉しめる瞬間を創り出すという精神を忘れることなく、日々の 取り組みを続けている。

庶務

催事

年齢も職業もさまざまな、個性豊かな団員を擁するアマチュア・

第74回 定期演奏会 ご案内

2026年2月15日(日) 13:30開演(12:45開場)

会場: すみだトリフォニーホール 大ホール

[指揮]松尾葉子

[サクソフォン]上野 耕平

[曲目] ◆モーリス・ラヴェル

道化師の朝の歌 亡き王女のためのパヴァーヌ

◆アンリ・トマジ

サクソフォン協奏曲 ◆ジョルジュ・ビゼー 「カルメン」組曲より抜粋

◆クロード・ドビュッシー 管弦楽のための映像より「イベリア」

[入場料] 2,000円(全席指定)

※2025年11月1日発売開始予定

[取扱い] トリフォニーホールチケットセンター

TEL.03-5608-1212 [問合せ] globalphil.ad@gmail.com

https://www.globalphil.net/

※未就学のお子様のご入場はご遠慮ください



関根 一臣

小島 暁子 三木 聡一郎 山本 信彦

柴田 真砂男

南 朋子

伊藤 正

藤村 伸夫

関根 一臣

野村 隆浩 野村 万季

藤村 伸夫

植松 喜孝

関根 一臣

藤村 伸夫

舟曳 千冬

柳町 弘毅 柴田 真砂男

野村 万季 南 朋子

伊藤 正

宮島 史英

二上 義幸

舟曳 千冬

中谷 奉子

二宮 一敏

福田 久美子

伊豫田 望

大野 愛

ilharmonic

CONDUCTOR 中田 延亮

Nobuaki Nakata

第73回

DROGRAM

ニールセン

仮面舞踏会序曲

Carl Nielsen **Maskarade Overture**

エニグマ変奏曲 作品36

Edward Elgar Enigma Variations Op.36

シベリウス

交響曲第2番 二長調 作品43

Jean Sibelius Symphony No.2 in D Major Op.43



すみだトリフォニーホール 大ホール

12:45 開場/13:30 開演



Philharmonic Orchestra

団長挨拶

グローバル・フィルハーモニック・オーケストラ

本日はご来場頂きまして有難うございます。

今回は19世紀末から20世紀前半を代表するヨーロッパの北部出身の作曲家の作品によるプログラムをお送りします。今回の曲目はすべて当団では初め て取り上げる作品になります。最初に演奏するニールセンの仮面舞踏会序曲は、デンマーク出身の彼が作曲した2つのオペラのうち2作目に当たる円熟期 の作品で、デンマークの国民的オペラともいわれています。2曲目はイギリスのエルガーが作曲したエニグマ変奏曲です。知人友人を変奏曲の形で取り上 げたもので、各変奏ごとのキャラクターの移り変わりが聴きどころです。後半はフィンランドを代表する、そして20世紀を代表する交響曲の作曲家である シベリウスの交響曲第2番です。彼の交響曲の中では最も演奏される機会が多いものの一つで、彼を国際的に有名にした作品でもあります。

指揮は今回初めて当団演奏会の指揮をする中田延亮さんです。ヨーロッパでデビューして以降、海外、国内の様々なオーケストラや歌劇場に客演をし活

躍されています。音楽家になる前に筑波大学で学ばれていた頃に同大学管弦楽団に所属していて、そ の時にご一緒したメンバーが当団にいることから今回のご縁につながりました。練習では求めるもの を的確にメンバーに示し、あっという間に曲を構築していくのが、演奏者としてはとても楽しく、演奏 会ではその成果を感じて頂けるのではないかと思います。

それでは、最後までごゆっくりお楽しみください。



団長 関根 一臣



Conductor

中田 延亮 Nobuaki Nakata

京都生まれ。筑波大学医学専門学群在学中に桐朋学園ソリスト・ディプロマコースに入学、コントラ バスを専攻する一方で指揮を学び、在学中より活動を開始する。その後2005年より本拠を欧州に移 しウィーン市音楽院古楽科などで更に学んだ。また巨匠ジャン・フルネ氏に認められ、最晩年の生徒 として師事し薫陶を受ける。

07年ブルガリアのスタラザゴラ歌劇場でヨーロッパデビュー、またドナウ交響楽団主催の国際指揮 者コンクールで第1位を受賞。08年にはブラジルにおける日本人移民100周年を記念して皇太子殿 下 (現 天皇陛下) ご臨席のもと、リオデジャネイロの伝統ある市立劇場で開催された 「日伯交流音楽 会」に招聘されペトロブラス交響楽団を指揮した。14年、群馬県で群馬バロックオーケストラを創 設、同団とは後期バロックをレパートリーの中心として共に活動を続けている。

17年に開催されたBlue Danube オペラ指揮者コンクールで第2位入賞。現代作品の演奏にも積極 的に取り組み、アンドリス・ゼニティス (ラトヴィア)、ガブリエル・ペニード (ブラジル) など各国の若 い世代の作曲家から絶大な信頼を寄せられている。

これまでにラトヴィア国立交響楽団とのエストニアツアー、ポルト・アレグレ交響楽団 (ブラジル)、 ブラショフ歌劇場 (ルーマニア) などの海外オーケストラへの客演や、国内のオーケストラとも数多 く共演を続けている。2008-10年スタラザゴラ歌劇場首席客演指揮者。

コントラバス奏者としては新日本フィルハーモニー交響楽団とバレンシア歌劇場管弦楽団に在籍した 他、オーストリア・スペインの古楽団体、室内アンサンブルの公演にも数多く参加した。

お客さまへのお願い

- ◆携帯電話、時計のアラーム等は必ずお切りください。
- ◆演奏中の入退場はご遠慮ください。
- ◆私語、お荷物を整理する音など、演奏中に物音が出ませんようご配慮ください。
- ◆会場内での録画、録音、写真撮影はお断りいたします。
- ◆出演者への花束、プレゼントの受付は停止しておりますのでご了承ください。
- ◆会場内でのマスク着脱はお客さまのご判断に委ねますが、ブラボーなどの声援をされる場合にはマスクの着用を推奨いたします。

Program Note

今回取り上げる3曲はいずれも19世紀後半にヨーロッパ北部で生まれた作曲家によって、19世紀末から20世紀初頭の限られた期間に書 かれた作品です。彼らが生まれる前の時代のクラシック音楽はウィーン古典派、そしてドイツ・ロマン派の影響が色濃い時代でした。しか し1848年の「諸国民の春」による社会的変化を背景に、音楽の世界にもナショナリズムの潮流が広がります。チャイコフスキーやドヴォ ルザークといった作曲家たちは民族性を意識した音楽を打ち立てました。その次の世代にあたるニールセン、エルガー、シベリウスもその 流れを受け継ぎながらも個々の芸術的ヴィジョンを追求しました。今回の3作品はいずれも、序曲、変奏曲、交響曲という古典的な形式 を用いながら、それぞれの個性を反映した意欲的な作品です。伝統と革新が交差する、それぞれの「声」に耳を傾けてみましょう。

	1860	1870	1880	1890	1900	1910 	1920	1930	1940	1950	1960
カール・ニールセン (1865—1931年)			1	仮面舞踏会	· 除序曲 (19	06年)					
エドワード・エルガー (1857―1934年)	エニグマ変奏曲 作品36 (1899年)										
ジャン・シベリウス (1865—1957年)		交響曲第2番二長調 作品43 (1901年)									

カール・ニールセン 仮面舞踏会序曲

【演奏時間:約5分】

カール・ニールセン (1865-1931) はデンマーク・フュン島出身の作曲家で す。オペラ《仮面舞踏会》は、18世紀中頃に活躍した劇作家ルズヴィ・ホル ベアの喜劇をもとに、ヴィルヘルム・アナスンがリブレットを書き、1906年に 初演されました。若者の恋愛模様を軸にした軽妙なすれ違いの物語が展開さ れるこの作品は、現在でもデンマークで親しまれています。序曲は短いながら も、オペラ全体の明るさとユーモアを凝縮した、色彩感あふれる音楽です。

エドワード・エルガー エニグマ変奏曲 作品36

【演奏時間:約30分】

エドワード・エルガー (1857-1934) は、英国クラシック音楽の地位を世界 に押し上げた作曲家です。1899年、彼の名を広く知らしめた作品がこの《エ ニグマ変奏曲》です。この作品には二つの「謎」が込められています。一つ 目は、各変奏が実在の人物(家族、友人、仲間)を音楽的に描写している 点。もう一つは「全体を通じて、暗示されるが演奏されない主題がある」と いうエルガーの言葉ですが、その正体は現在でも明らかになっていません。

第1変奏 "C.A.E." キャロライン・アリス・エルガー 作曲者の妻であり、深い愛情のこもったロマンティックな旋律が彼女の品 格と情熱を象徴する。

第2変奏 "H.D.S-P." ヒュー・デイヴィッド・ステュアート=パウエル 室内楽仲間のピアニスト。ウォーミングアップのクセを模したフレーズが ユーモラス。

第3変奏 "R.B.T." リチャード・バクスター・タウンゼンド アマチュア俳優で表現を自在に操る個性派。風変わりで愛嬌のある人柄 を描写する。

第4変奏 "W.M.B." ウィリアム・ミース・ベイカー 軍人。堂々たる力感と若干荒っぽい強さが特徴。威厳のあるマーチ風のフ

第5変奏 "R.P.A." リチャード・P・アーノルド

誠実さと穏やかなユーモアを併せ持つ人物であり、音楽にもその慎ましさ が反映されている。

第6変奏 "Ysobel" イザベル・フィットン エルガーのヴィオラの弟子。跳躍する対位法的な動きに内向的で真面目

な性格が窺える。 第7変奏 "Troyte" アーサー・トロイト・グリフィス

建築家でチェス愛好家。ピアノのレッスンがうまくいかずにけんかになった という逸話に基づく。

第8変奏 "W.N." ウィニフレッド・ノーベリー フィルハーモニー事務局の女性。快活な性格が、軽やかな音楽に見事に

反映されている。

第9変奏 "Nimrod" アウグスト・イェーガー

ドイツ出身で楽譜出版社ノヴェロ社のエディター。エルガーの精神的支柱 ともいえる存在であり、この楽章では誠実で崇高な魂が描かれる。単独 で演奏されることも多い屈指の名篇。

第10変奏 「間奏曲」 "Dorabella" ドーラ・ペニー

夫妻と親しい女性友人。愛称はモーツァルトの《コシ・ファン・トゥッテ》 の登場人物に由来する。

第11変奏 "G.R.S." ジョージ・ロバートソン・シンクレア

ヘリフォード大聖堂オルガニスト。彼の愛犬が川に落ち必死で泳いで岸へ 戻る様子が描かれる。

第12変奏 "B.G.N." ベイジル・G・ネヴィンソン

チェリストで、エルガーと室内楽を共にした仲間。人間味あふれる人格を 描いている。

第13変奏 「ロマンツァ」 "* * *" 誰を表しているかいまだに判明していない 未だ正体の明かされていない変奏。メンデルスゾーンの《静かな海と楽し い航海》の引用があることから、航海に関係するとされている。

第14変奏「終曲 | "E.D.U." エルガー本人

妻が用いた愛称「エドゥ」にちなんだ変奏。第1変奏や第9変奏を巧みに 引用し、すべての物語が集約される壮麗なフィナーレ。作曲者の自己投影 が最も色濃く現れる楽章。

ジャン・シベリウス 交響曲第2番二長調 作品43

【演奏時間:約45分】

ジャン・シベリウス (1865-1957) は、フィンランドのハメーンリンナに生 まれ、20世紀の交響曲作家として世界的に高い評価を得た作曲家です。 1899年に完成された交響曲第1番によって国内で大きな成功を収め、続く第 2番ではさらにスケールの大きな音楽的冒険が展開されることになります。 第2番の構想が始まったのは第1番の直後でしたが、創作は一時中断されま す。1901年、彼は家族とともに数か月にわたりイタリア各地を旅しました。 南欧の風景に触れることで彼は創作意欲を再び燃やし、結果としてこの交響 曲は、シベリウスの内面に潜む情熱と希望、そして国民的な精神性と詩的な 抒情が融合した力強い音楽へと昇華されました。

この作品には、「イタリアと地中海からインスピレーションを得た、太陽の輝 き、青い空、はちきれんばかりの喜びに満ちた音楽しというシベリウス自身 の言葉があります。一方、シベリウスと親交のあった指揮者ロベルト・カヤヌ スはより政治的な視点から「ロシアによるフィンランドの自治剥奪、圧政に対 する抵抗の象徴」と位置づけました。実際、当時のフィンランドはロシア帝 国の支配下にあり、緊迫した政治情勢が背景にありました。この交響曲は 愛国的感情を呼び起こすものとして多くの聴衆に受け入れられ、後年「フィン ランドの独立のシンボル」として語られることも少なくありません。いずれにし ても、その内容と解釈は聴き手に多様な読み解きを許すものです。

第1楽章 Allegretto 二長調 6/4拍子、ソナタ形式

第2楽章 Tempo andante, ma rubato - Andante sostenuto 二短調 4/4拍子、A-B-A-B-コーダの構成

第3楽章 Vivacissimo - Trio. Lento e suave - attacca 変口長調 6/8拍子、A-B-A-B-コーダの構成

第4楽章 Finale. Allegro moderato - Moderato assai -Molto largamente 二長調 3/2拍子、ソナタ形式。 なお、第3楽章と第4楽章は続けて演奏される。

(トロンボーン/関根一臣)